

## 報 告

# 長岡高専インターアクトクラブ活動報告 2014-2015

—理念・活動概要・ボランティア活動・学生交流  
・方針・展望：設立50周年に際して—

佐藤 公俊<sup>1</sup>・野口 一英<sup>2</sup>

<sup>1</sup>一般教育科—社会 (Liberal Arts-Social Sciences, National Institute of Technology, Nagaoka College)

<sup>2</sup>機械工学科 (Department of Mechanical Engineering, National Institute of Technology, Nagaoka College)

Annual Report of Interact Club 2014-2015,  
in National Institution of Technology, Nagaoka College  
-Of the Idea, the Outline, the Volunteer Activities, the International and Domestic  
Students Interaction for Friendship, and the Policy and Vision, since 1965 -

Kimitoshi SATOH<sup>1</sup>, Kazuhide NOGUTI<sup>2</sup>

### 要旨

本稿では、長岡高専インターアクトクラブの理念・活動概要、2014年夏から2015年秋にかけてのボランティア活動、および、(国際・国内の)学生交流活動を報告する。そして、学生の国際交流と社会貢献活動を支援し、学生の健全な成長を願う立場から、活動の成果を確認し、明らかになった課題を検討する。

当クラブは、1965年9月16日に国際ロータリークラブ第2560地区の長岡ロータリークラブの認証により創設され、2015年で設立50周年を迎える。本校の留学生を含めたクラブのメンバーは、長岡市内の児童養護施設の双葉寮に40年以上に渡って訪問交流を行うなど社会貢献活動を行って社会貢献の精神を学んできた。また、現在まで20年以上に渡って、本校や他校の留学生との文化・交流活動を行い、国際親善を実行してきた。当クラブは沖縄高専インターアクトクラブと、毎年3月の妙高高原での国際交流スキー研修と9月の沖縄平和交流研修で、お互いの地域を行き来しての交流と学び合いで友好を深めてきた。

メンバーの学生たちは留学生とロータリアンも交えての多文化・多世代・多地域・国際交流の行事を協力して企画運営することで、お互いに気づきあい、視野を広げ、成長している。

**Key Words :** *volunteer activities ,Nagaoka kousen interct club, Okinawa kosen interact club, international and domestic students interactions for friendship*

### 1. はじめに：支援の方針と検討課題

本稿では、まず、独立行政法人国立高等専門学校機構 長岡工業高等専門学校 (以後長岡高専と呼ぶ)

インターアクトクラブの理念と活動概要を紹介する。次に、主に2014年夏から2015年夏にかけての活動として、当クラブのメンバーたちのボランティア精神による社会貢献活動と多文化交流・国際交流活動

を紹介する。(活動や行事の写真などについては長岡高専インターアクトの公式HP<sup>1)</sup>を参照されたい)多文化交流活動には沖縄高専インターアクトクラブとのお互いの地域を行き来しての多文化・多世代・地域交流活動がある。当クラブの活動方針である学生の自立的協働性を示すものとして、そうした活動でのコミュニケーション能力とリーダーシップの形成、相互理解による視野の拡大と平和への意識の形成と共有がある。また、学生を育てる支援態勢、つまり、学生が個別の行事を実施する際、自主的に企画・討議・役割分担を実行できる態勢作りとリスク管理の支援について検討する。

こうして行事实施の際の指導と支援上の課題を検討する際、学生が自主的自立的に協働して行事を実行することの意義は、学生の意欲／意識／価値／視野／世界の拡大と、学生間のコミュニケーションと相互理解からの人権保障と平和への意識の形成と共有の方向にあると考えている。ただし、学生たちが行事に参加して、それを実施して楽しんでくれ、将来の成長の糧になればいいという感もあり、それなりの成長を短期間に見せてほしいと願うのは、低学年の学生には荷が重いかもしれない。

筆者らは、インターアクトの部会などで社会貢献と多文化・国際交流の意義を掘り下げてきた。学生たちがボランティア活動をとおして社会貢献の精神を、留学生との交流を通じて国際理解と友情を涵養してくれれば幸いである。

## 2. インターアクトクラブの理念と活動

長岡高専インターアクトクラブは、国際交流と社会貢献を通じた新世代育成を目的として、国際ロータリー第 2560 地区の長岡ロータリークラブの認証により昭和 40 年 9 月 16 日に設立され、同クラブの支援のもと、代々の部員が長年にわたり積極的に国際交流と社会貢献活動を行っている。国際ロータリーによるインターアクトの目的と目標を紹介する。

### 2. 1 インターアクトの目的と目標<sup>2)</sup>

**目的**「インターアクト・クラブは、奉仕と国際理解に貢献する世界的友好精神の中で相共に活動する機会を青少年に与えるために結成されます。インターアクト・クラブに入会できる者は高校に在学中の学生または年齢 14 歳から 18 歳までの若い人です。」

**目標**「1. 建設的な指導力を養成し、自己の完成を図ること。

2. 他人に対する思いやりと、他人の力になる心構えを奨励し、これを実践すること。

3. 家庭と家族の重要性に対する認識を涵養(かんよう)すること

4. 個人の価値を認める考え方に立脚して、他人の権利を尊重する観念を養うこと。

5. 個人的成功のためにも、地域社会の改善のためにも、さらには団体としての業績を上げるためにも、各人が責任を負うことがその基本であると強調すること。

6. すべての有用な職業は社会に奉仕する機会であるとして、その品位と価値を認識すること。

7. 地域社会、国家および世界の問題についての知識と理解を深める機会を提供すること。

8. 国際理解と全人類に対する善意を増進するために、個人として、また団体として、進むべき道を切り開くこと。」

高専の 1 年～5 年までの学生がクラブに参加して良いと認められている。上のように、インターアクトクラブとは、個人の確立と社会貢献、及び、国際理解への善意を増進することを目的として、地域のロータリークラブにより青少年育成のために設立された奉仕団体なのである。

### 2. 2 設立以来の活動

設立以来の特筆すべき活動を挙げると、長岡高専インターアクトクラブの学生達は、40 年以上にわたって長岡市寿にある、家庭に恵まれない子どもたちのための児童福祉施設「双葉寮」<sup>3)</sup>への訪問を続けている。当初長岡ロータリークラブから、この数年来長岡市社会福祉協議会からも支援を受けて、先輩から代々引き継いできた。当クラブの学生達は、毎月双葉寮を訪問し、小学生以下の子供達の遊びと勉強の相手をしている。また、夏休みやクリスマスの特別行事も企画・実施して子供達に楽しんでもらっている。最近のことであるが、当クラブは、長年の社会貢献活動を表彰する北陸銀行賞を受賞した。

また、当クラブの学生達は、本校や他高専の留学生との国際交流も長い間行ってきている。長岡高専がマレーシアなどからの留学生を受け入れて以来、当クラブは 30 年以上にわたって本校の留学生と親善交流を行っている。新入留学生歓迎 BBQ、親睦のお茶会やバドミントン、送別会や餅つきなどをおこない、留学生との友情を深め、留学生の日本文化理解の促進を図っている。

さらに、当クラブの学生達は、10 年以上にわたって毎年冬季と春季に、妙高杉の原スキー場で開催されるスキー国際交流研修会に参加し、運営に参加している。学生たちは本校と他高専の留学生を迎えて、スキーやスノーボードでの集団行動と対話を通して、交流を深めて相互理解と友情を深めている。

当クラブの学生たちは、ニーズのある時に募金を行い、災害の被災地や被災者へ寄附を行ってきた。また、空き缶を拾って清掃し、ペットボトルキャップ

ブ収集を行ってスーパーに寄付をし、ゲームカードを収集して途上国の児童に寄付してきた。被災地などへ適時の募金など、近年の当クラブの支援活動を新しい順に並べると次の通り。

- 1, ネパール地震災害についての学習活動・被災地復興支援活動への参加, ネパール被災者支援募金
- 2, エチオピア小学生教材カード収集と寄付
- 3, 福島第1原発避難者支援の避難所慰問活動
- 4, 東日本大震災被災者支援と福島第1原発被災者支援の募金
- 5, 東日本大震災対応ボランティアバックアップセンターへの物資の寄付と援助物資整理ボランティア
- 6, 長岡大花火大会のフェニックス花火打ち上げのための市民募金
- 7, 新潟水害支援ボランティアと募金

### 3. ボランティア活動

本節では、長岡高専インターアクトクラブのボランティア活動を紹介し、若干のコメントを付する。

#### 3. 1 双葉寮訪問

インターアクト部員の双葉寮への訪問は、40年以上にわたって、先輩から後輩に継承されて、行われて来た。双葉寮は、長岡市が設置し「保護者のいない児童、虐待されている児童、児童相談所の決定により入所した児童、その他の環境上養護を要する児童を養育・保護し、あわせて退所した者に対する相談その他自立のための援助を行うこと」<sup>3)</sup>を目的とした施設である。本年10月に入って当クラブは、長年の社会貢献と国際交流活動が認められて、社会貢献活動を表彰する北陸銀行賞を受賞した。

双葉寮への訪問は2015年度は毎月1回の訪問を実施する予定である。8月には高専特別行事で訪問した。12月にはクリスマスパーティーに参加する予定である。

#### 3. 2 ネパール支援活動

長岡高専インターアクトの有志は5月の新入留学生歓迎BBQでネパール地震災害被災者支援募金を行った。有志の学生たちはチーム中越の主催するネパール地震災害被災地復興支援活動に参加し、また、ネパール地震災害の学習活動として、以下のネパール震災支援のワークショップに参加した。

ネパール震災支援のワークショップ

日時：8月27日（木）午後2時～4時  
場所：長岡工業高等専門学校

内容：

- 1, ネパールの地震被害の現状の説明  
ネパールから長岡技大への留学生スリザナさん
- 2, 支援の体制と方法の説明  
チーム中越 井上さん
- 3, 私たちのできることについてのグループ討論：  
指導 井上さん
- 4, グループの意見発表と質疑：司会 佐藤
- 5, 皆さんの感想とまとめ：司会 佐藤

当クラブの有志は、2015年10月31日と11月1日に長岡高専で行われる学園祭「未工祭」でも募金を行う予定である。

#### 3. 3 インターアクト年次大会主管

長岡高専インターアクトクラブは、長岡ロータリークラブの主催の下で2014年7月の国際ロータリー第2560地区2014-2015年度インターアクト年次大会を主管した。以下に同大会の概要を示す。

#### 第2560地区インターアクト年次大会

主催（スポンサークラブ）：長岡ロータリークラブ  
主管（ホスト校）：長岡高専インターアクトクラブ  
参加：新潟県内の高校・高専の11のインターアクトクラブ

日時：2014年7月12日（土）～13日（日）

会場：長岡高専（7月12日）アオーレ長岡、長岡グランドホテル（7月13日）

日程概要：

2014年7月12日（土）

11:30～12:00 受付・学校別写真、ビデオ撮影

12:00～12:45 昼食：学生食堂

13:00～13:40 開会式：校長挨拶、優秀インターアクト表彰

13:40～17:30 分科会：科学実験、お国柄紹介、国際ゲーム

休憩：各国のお茶とお菓子、願いを「ぼこ」に書く

17:30～17:50 交流茶会：ブラバン演奏

18:00～18:30 歓迎夕食会：立食パーティ  
乾杯（長岡ロータリー）

長岡高専 IAC 部長挨拶 学生食堂

18:30～19:30 佐藤明臣氏講話  
沖縄高専インターアクト報告

19:30～20:00 ゲーム分科会報告  
アイスブレイキング、表彰

20:00～20:30 お国柄クイズ分科会報告、  
クイズ、表彰

20:30～21:00 スカイランタン分科会報告、打上げ

21:00～21:30 ホテル移動：バス3台  
長岡グランドホテルへ

21:30～23:00	学生交流	長岡グランドホテル
23:00	就寝	長岡グランドホテル
2014年7月13日 (日)		
6:00	起床	長岡グランドホテル
6:30～7:00	ラジオ体操	アオーレ長岡
7:30～8:30	朝食	長岡グランドホテル
9:00～10:30	全体会：長岡グランドホテル	
	講演会：堂道 JICA 副理事長	
10:30～11:30	各校 IAC 活動報告	
11:30～12:00	閉会式	
12:00～13:00	昼食	長岡グランドホテル
13:00	解散	

### 3. 4 上越教育大学付属小学校6年2組との交流

長岡高専インターアクトは、5月に来校した上越教育大付属小学校6年2組の生徒の国際交流学習で生徒の学習を支援し、参加者から好評であった。

#### 1, 参加者

上越教育大付属小学校

6年2組 男子20名 女子20名の合計40名

引率 小山明希恵先生と佐藤明臣さん

#### 2, 日程の詳細

5月26日(火)

11:00 到着・学校見学 担当:佐藤公俊

3号館吹き抜けにてロボット見学

担当:野口一英技術職員

11:20 学校説明 担当:佐藤公俊

外国事情 石崎幸三先生

理科実験体験 床井良徳先生

12:00 頃昼食

12:10 インターアクトによるアイスブレイキング  
留学生のお話

13:00 佐藤の授業「東アジア地域論」の見学

・ベトナム人の留学生 LE TIEN HAI (ハイ) 君の  
ベトナム紹介

・班別で高専の専攻科1年の学生とお話(感想と質問)

・生徒たちの感想

・解散

14時頃 高専出発

#### \*出席した専攻科生の感想1

「今日上越教育大学付属小学校の人たちと意見交換をして、そして今の小学生の積極性や授業に入っていく姿勢と、理解をしようと必死で考えようとしている姿を見て、自分も見習っていかなければと思いました。

ハイくんがしてくれたベトナムの話についてはホーチミンの話や、主食の話、また異民族衣装のことについてなどどれも今まで知らないことばかりだったので聞いていて面白かったです。小学生の子達も

一枚一枚スライドが代わるたび興味津々という感じで身を乗り出して聞いて、タメになったのではないかと思います。

このような交流は中々ないので、お互い良い刺激をもらえたと思います。個人的に少し意見交換の時間が短いように感じたので、少し多めにコミュニケーションをとってみたいかったです。全体的にとっても楽しくて和やかな雰囲気良かったです。」

#### \*出席した専攻科生の感想2

「上教小学校の生徒さんたちは小学六年生とは思えないほど大人な子が多くて驚愕しました。私はうっかり自己紹介を設けるのを忘れてしまったため、同じ班の生徒さんたちの名前を知ることができず、私達の名前も生徒さん達に教えることができませんでした。なので、少しぎこちないまま、終わってしまっただけ反省しています。しかしながら、そんな状態であっても生徒さん達が積極的に話をしてくださったので、本来ならば、私が積極的に引っ張っていくところを、生徒さんたちに助けられた形になりました。

本題のベトナムについての学習ですが、私は二年前に海外学習で現地に行っていたのにもかかわらず、資料を持っていくのを忘れたため、偶然持ち歩いていた、お礼しか班の生徒さん達に見せてあげられなくてその点を反省しています。しかしながら、生徒さん達がハイさんの発表を一生懸命聞いていたので、感想をまとめるのもスムーズに行えました。もし、またお越しいただく機会がありましたら少しでもいいので一緒に学習や交流ができればと思います。」

### 3. 5 インターアクト年次大会参加

本年7月新潟産業大学付属高校が主管した国際ロータリー第2560地区2015-2016年度インターアクト年次大会には、部長の富樫宏介君、幹事の野村泰暉君、大石克輝君が日帰り参加した。第1日に参加した野村君と第2日に参加した富樫君の感想は次の通りで、参加した諸君の頑張りがわかる。

年次大会に参加して

長岡高専インターアクトクラブ

会長 富樫宏介(ひろゆき)

幹事 野村泰暉

7月19日(土)

今回の年次大会は長岡高専のテスト勉強期間に重なっており、野村は1日目しか参加できませんでした。

普段から私たち(特に高専生)は、コンピューターやモニターと向き合った生活をしているため、今回のテーマ「自然に親しもう」は、とても興味深く、

心に響くものでした。分科会ではカヌーを漕いで自然ならではの体験をしたり、カレー作りでは人との交流・会話の大切さを感じました。

やはりこれからの生活はパソコンやモニターのお世話になることが多いと思います。ですが、自然との親しみも考えていきたいと思います。

今後皆様にはお世話にことがあると思いますが、その時はよろしく願いいたします。(野村)

7月20日(日)

2日目には富樫が日帰りで参加しました。江口歩さんが「自然がすべてを教えてくれる」をテーマに講演をされました。私はこの講演の中でも万引きした少女の話がとても印象的でした。江口さんのその時の対応もさることながら少女が最後に言った「母の愛情が盗みかかった」という言葉に今の子供たちがとても恵まれている反面、そのような貧しい部分があるということを感じ、自分はどうかと少し考えさせられました。

そのあと各高校の活動紹介などを行いました。他の高校では、ネパール支援募金や献血活動、保育園訪問や募金活動など、社会貢献の活動を積極的に行っていて自分たちもこれらの活動を参考にすると共に、積極的にボランティア活動も行っていきたいと思いました。

また、自分たちはスライドを作り、昨年撮った写真等も使い分かりやすく発表を行いました。少しかんだりするところもありましたがしっかりと発表できたと思いました。(富樫)

### 3. 6 アクトの日参加

インターアクト部員は、第2560地区ローターアクト主催の<アクトの日>に参加し、小学生の学習支援のボランティアをし、部員は勉強になったと好評であった。概要は次のとおり。

#### 【アクトの日~世界で1枚!にぎやか特大壁画~】

喜(社会奉仕)~地域に貢献する喜びを感じよう~

主催:第2560地区ローターアクト

後援:新潟市教育委員会

目的:1 小学生を対象とした奉仕活動を通して、地域社会に貢献すると共に、ボランティア精神を培う。

2 新潟県内の小学生やその保護者との交流を深め、ローターアクトクラブやインターアクトクラブの活動を宣伝する。

3 インターアクターとローターアクターが、異年齢交流を通して、互いの活動への理解を深める。

○日時:9月6日(日)

○会場:いくとびあ食花

○内容:小学生との交流活動

○参加者:第2560地区RC会員5名

第2560地区RAC会員39名

第2560地区インターアクトクラブ顧問

[東京学館新潟高校]高橋成林様

[長岡工業高等専門学校]野澤武司様

第2560地区インターアクトクラブ会員9名

小学生33名、小学生保護者及び兄弟(約45名)

計88名(総勢約133名)

#### \*参加した部員の感想1

「アクトの日を通じて得たものはインターアクトの活動に大きく貢献できるとても中身の濃い素材であったと思います。例えば、点鐘などのあった、プロログです。ここではそのピンと張った空気のせいもあるのですが、インターアクトの一員であるということに身に染みて感じる事が出来ました。自分がかつてこの部活で大きな失態を犯しています。このことを通してよりインターアクトの幹事である自覚を持てたと感じます。

この他にも得たことはいくつかありました。今回は小学生との接し方をボランティアを通して学ぶという目的で参加しました。この目的は完全な形で習得することはできませんでしたが、そこはかたなくどう接すれば良いのか、接する際には具体的にどこに気を付けるべきなのか、子どもはなにが、どうして怖いと思うのかなど、今までの自分が勘のようなもので行っていた子どもの接し方をより具体的に得ることが出来ました。あのような場を設けてもらって手に入れた宝を腐らせることの無いようにここからさらに努力しようと思います。」

#### \*参加した部員の感想2

「今回のような子供を対象とした活動はいままでも体験したことがなく、子供目線で考えることが難しかったです。それに、ローターアクトとの活動もいままでの活動にはなく、ローターアクトの活動は自分が思っていた以上に多くの活動があるんだということを感じました。

活動としては積極的に子供に話しかけたり、ほめたりすることはできました。ですが、周りを見て行動することが足りなかったと思います。もう少し自分で考えて行動する能力をつけたいと思います。

今後こういった活動があれば、積極的に参加していきたいです。」

#### \*引率教員の講評

「アクトの日、学生たちの様子

9月6日(日)に新潟市のいくとびあ食花でアクトの日の行事が行われました。

今年の行事は、「親子で創ろう!」世界で一

枚！にぎやか特大壁画」というタイトルで、1,2年生中心の小学生たちに、いくとびあ食花にいる動物や植物をスケッチさせ、それをもとに大きな画用紙に植物や動物の絵を描かせ、つなぎあわせて数枚の大きな壁画を創るというものでした。

長岡高専インターアクトクラブからは、大石部長、野村副部長、海老沼君、江添君、脇坂君の5名が参加し、ローターアクトの方々とペアで、小学生のスケッチと絵を描くことのサポートをしました。午前10時少し前に小学生たちとその保護者との対面式を行い、今日やることの説明を、かわいらしいスライドで行い、植物のスケッチに行くグループ、動物のスケッチに行くグループに分かれて、スケッチに向かいました。動物のスケッチに行くグループがほとんどでした。

スケッチが始まって少しすると部員たちと小学生の間のコミュニケーションも取れてきて、小学生たちに植物や動物の説明やスケッチについてアドバイスする姿が見受けられました。そして、午前10時40分頃から数グループずつに分かれ、そのスケッチをもとに大きな画用紙に植物や動物の絵を描く作業が始まりましたが、部員と小学生たちの信頼関係も十分なものになっていたようで、部員と小学生たちが仲よく話しながら絵を描いている姿が見られました。

そして、最後に創った絵をつなぎ合わせて数枚の大きな壁画を創りましたが、小学生たちも保護者も部員たちもとても嬉しそうなお顔をしておりました。

今回の行事に参加し、部員たちはボランティアの喜びを感じるだけでなく、双葉寮で活かせる大変良い経験をしたと思います。」

### 3. 7 災害支援活動学生シンポジウム参加

平成27年9月26日(土)13:30~17:00に長岡震災アーカイブセンター<きおくみらいホール>において、新潟県地域振興局が主催する「災害支援活動学生シンポジウム-つたえる！つながる！ボランティア-」が開かれた。第1セッションとしてパネルディスカッションが第2セッションとしてワークショップが行われ参加者が活発に意見を交換した。

第1セッションは「学生が行うボランティア活動、教育活動の実際と今後の展開」をテーマとしたパネルディスカッションで、公益社団法人中越防災安全推進機構地域防災力センター長、河内毅氏がコーディネーターを務めた。本校からインターアクトクラブの部長大石克輝君と副部長野村泰暉君が参加し、長岡造形大学、長岡技術科学大学の学生と長岡大学のボランティアコーディネーター脇田さんとともに、パネリストとして活動事例を発表し意見交換をした。

両君は、インターアクト部員が40年以上に渡って行っている、長岡市の児童養護施設双葉寮への訪

問と交流で、子どもたちが「楽しいと言ってくれる、名前を覚えてくれる、温かい心が開かれ、開けっぴろげにできる」と、子どもとの距離が近くなって、心がふれあって嬉しかったと「ボランティア活動による癒しとメンタルケア」を述べた。二人は「学校の垣根を越えて大きいことをやろう」と、他校と連携したネパール支援の学習を実施したこと、ネパール支援の募金を学園祭で実施すると呼びかけた。

長岡技大のボランティアグループ Bolts of Nuts (ボルナツ)の学生はボランティア活動による地域支援で、地域の方との「時間と体験の共有」を述べ、支援相手の皆さんの「そばにいること」で「人と人とのつながり」の貴重さ、「ボランティア活動で相手に感謝するようになる」と発言した。若い人との交流で地域の方も開かれていった。また、長岡技大の留学生は、ネパール募金活動で日本人の温かい面に触れられてよかったと述べた。

長岡造形大のボランティア学生は被災地ボランティアでの「現地で見えること」の大切さを話し、造形とボランティアとに共通することとして、人とのコミュニケーションを取れることの喜びと、「時間と体験の共有」を強調した。

長岡大学の脇田さんによると、ボランティアの原則は、自分が決めて、あなたのために、自分のできることをすることである。真面目で前になかった長岡大学の学生が高専生と交流して気づきがあった。長岡大学の学生は高専生にスピード感があるが、自分たちは大学で勉強していて、計画性を持って物事を学んでいるので、高専生のスピード感と大学の計画性が合わさるとうまく行く。自分の特性を生かす方向の化学変化で、刺激を受けていい方向に動く。病院の壁画を描くとき、学校の垣根を越えて造形大さんとやれて楽しかったように、一緒にやると混ざって面白いことができそうと気づいたのである。

ワークショップでの意見交換は、災害支援活動から少し外れて、自分探し論、ボランティア論とコミュニケーション論が主になったが、コーディネーターの河内氏がまとめ、結果的に、今後学生たちが主体的に持続的につながりを持って、支援活動を企画すること、そして、周囲の方がそれを支援するインフラ(こうしたシンポジウムやバックアップセンター)を作ってゆく、治にいて乱を忘れない長岡方式の市民協働の方向に議論が広がったと言える。

大石君と野村君は、様々な学校の方と意見交換ができてよかった、今後の活動に生かしますと感想を述べた。両君の今後の活躍が期待できる。こうした機会を準備してくれた関係各位に感謝申し上げる。

#### 4. 国際交流活動

以下、長岡高専インターアクトクラブの国際交流活動とその成果を紹介し、若干のコメントを付する。

##### 4. 1 台湾研修団の高専での歓迎会

当クラブは、4月24日(金)、25日(土)、台湾の国際扶輪(ロータリー)3490地区三重中央扶輪社(ロータリークラブ)、台湾新北市清傳高級商業学校、ならびに、台湾新北市立三重高級中等学校からの訪問団を長岡高専に迎えた。本校にて24日に歓迎会と歓迎交流会、25日にインターアクト交流会を開催した。インターアクト部員は、それぞれの部署で頑張って、歓迎の行事を成功に導いてくれた。部員たちがこれを機会に国際交流に目覚められると嬉しいことである。

物質工学科3年生も、台湾の生徒さんが本校に到着した時から、生徒さんたちをエスコートし、台湾語や英語でコミュニケーションを取ってくれた。吹奏楽部の素晴らしい演奏と、ロボティクス部のトドケッシーの可愛い動きに台湾の生徒さんは大喜びした。両部のアトラクションへのご協力に感謝する。

25日夜のさよならパーティーで皆がいつまでも離れがたく、喜びの気持ちを表して感動的であった。

このような国際交流の意義ある素晴らしい歓迎行事を、大過なく実施できたのも、校長はじめ本校の教職員方、国際ロータリー第2560地区インターアクト委員会の皆様、および、長岡ロータリークラブの皆様のご支援の賜物と深く感謝するものである。

本校からの参加者は以下の感想を寄せてくれた。

「昨秋に台湾の学生が来た時には数分しか顔合わせることができませんでした。今回の交流会ではほぼ一日顔を合わせることができ、とてもいい経験になりました。台湾の学生はそれほど英語を使おうとしていなかったため、長い時間会話をするのはできませんでした。それでも、テイの通訳があったために、意思疎通に大きな問題は発生しませんでした。しかし、通訳を通して会話をするのと直接話すのでは、たとえ上手く喋れなくても直接会話したほうが交流には優位だと実感しました。英語はもちろんのこと、話す相手の母国語を修得することはものすごく重要な事だと思います。

今回の交流会で良かったことは、進行がスムーズであったことだと思います。式全体で大きな問題が起きなかったことはお互いにとって良かったことだと思います。

改善点は自分が中国語を喋れなかったために、あまり話しかけようとしなかったことです。英語圏の人であれば、英語で話しかけようとするが、通じる

か通じないかわからない人には話しかけようとしなかった。もっと積極的に話しかければもっと交流ができたかもしれない。」

「台湾学生交流感想

いい点…2年生以上は割と積極的に話ができていると思う。1年生は仕方ない。みんな臨機応変に対応していた。

悪い点…当日の準備が少しぐだつた、もう少しリハーサルをしてほしかった。高専のパフォーマンスのクオリティが低かった、練習が必要。

改善提案…インターアクトの普段の活動として英語の勉強会を週に何回か開いて備えるようにする。

感想…今回の交流を行って本当に参加してよかったと思いました。このような国際交流をしていくうちに思うようになったことがあります。このように海外の学生と友達になるには学生の時にしかできないということです。社会人になってから留学して作った友達はこういう体験で作った友達と違うものだと思います。だからこういう機会があれば積極的に自分からどんどんやらなければいけないと思います」

このように、学生たちは国際交流の意義を認識し、それに積極的に参加するようになり、直接の会話によるコミュニケーションの重要性を感じたようだ。学生たちは今後、国際理解の重要性と外国人とのコミュニケーションツールとしての英語など外国語の体得の必要性を理解してくれるであろう。

##### 4. 2 新入留学生歓迎BBQ

5月9日(土)12:00～高専近くの悠久山にてインターアクトクラブ主催で新入留学生歓迎のバーベキューを、先輩の在校留学生の協力をえて行った。長岡技大のネパールからの留学生と支援のベトナムの留学生たちがネパール地震緊急支援募金を実施した。参加メンバーは、学内外の学生ばかりでなく、ロータリーアクトのメンバーや小学校の先生との交流もでき、和気藹々と会話をして好評であった。

##### 4. 3 夏季国際交流研修への参加

当クラブの有志が、新井ロータリークラブの佐藤明臣氏が主催する夏季国際交流研修に参加し、留学生との交流を楽しんだ。案内は以下のようである。

夏季国際交流研修の案内

新井ロータリークラブ 佐藤明臣

1, 実施の目的

夏季国際交流研修では、日本人学生と留学生とがお互いのことを知り、新たな自分を発見する為の合宿を行う。留学生と日本人学生のお互いのふるさとの紹介からはじめる相互理解と交流会、および、自然散策を実施する。

2, 日時：平成 27 年 8 月 10 日(月)~11 日(火)

場所：上越教育大学 赤倉野外活動施設

妙高市大字赤倉字広 157-3(0255-87-2464)

3, 日程

8 月 10 日(月) 妙高高原駅 集合

昼食~妙高国立公園 (苗名滝など) ~

赤倉野外活動施設：風呂~夕食~交流タイム~就寝

8 月 11 日(火) 6:00 起床 清掃 ラジオ体操

7:30 朝食

9:00 自然散策：杉野原ゴンドラ頂上駅~徒歩~

山麓駅レストラン (昼食)

16:00 妙高高原駅 解散

#### 4. 4 冬季・春季国際交流研修

この研修の目的は、まず、国外からの留学生として長岡高専に在籍している留学生たちに、雪国の文化でもあるスキーやスノーボードを体験してもらうことである。合宿による日本人学生との異文化交流を通じてお互いの文化とその異同を認識して、学生同士の交流を深めてもらうこと、及び、友情を育むことも重要な目的である。この「国際交流」研修は、ロータリークラブをはじめとする様々な組織や皆様の協力を得て現在まで継続することができた。近年ではスキーとその他の国際交流研修は佐藤明臣氏を中心とするサポートチームが主催し、当クラブは主管として企画・実施を行う体制へ移行している。

当クラブは、国際交流サポートチームの主催するスキー国際交流研修に対し、2014年12月25日~12月27日に第22回の交流研修に参加し、また、2015年3月2日~4日に第23回の交流研修に参加して運営に協力した。第22回交流研修(冬季)の案内を示す。

#### 第22回 スキー国際交流研修(冬季)

本研修は、国際交流サポートチームが主催して、長岡高専インターアクトクラブが交流を企画して実施してきました。本研修の目的は、長岡高専など日本の学校に在籍している留学生が、雪国ならではのスキーやスノーボードを体験し、日本人学生と交流することにあります。その際に、参加する内外の学生個人が異文化交流により、相互の生活や文化の差異を認識し、それを通じて自己認識を広め、また、相互の信頼を深めて、お互いに成長することを狙い

としています。

交流企画：今回のスキー研修では、初日は交流と滑り、2日目は班別に滑ります。また、学生の企画で、さまざまな交流活動を行います。

○主催：国際交流サポートチーム(佐藤明臣代表)

○企画運営：長岡高専インターアクトクラブ

○日時：2014年12月25日(木)~12月27日(土)

○場所：新潟県妙高市杉の原スキー場

○宿泊先：ナチュラルイン翠山

新潟県妙高市大字杉野沢1922 ☎0255(86)6030

10年以上にわたりスキー国際交流研修が実施されて来たことで、本校の留学生には、同国の先輩から聞いて、我々クラブの存在や本研修があるからという理由で留学先を長岡高専に決めたという学生もいる。沖縄高専生にも本研修に参加したことがきっかけで進路を長岡技術科学大学に決めたという学生もいる。また、卒業後にも本研修で知り合えた学生や社会人の方々との交流を積極的に継続しているOB・OGも多くいる。このように本研修により交流と友情の輪が広がり続けており、将来にわたって継続してほしい活動である。

研修の運営に際して、各種の情報や指示の伝達方法として、葉を作成して参加者全員に配布し、全体の意思統一と情報共有を図り、国際交流研修への参加者であるという自覚を促してきた。その他にも滑る前の安全講習の徹底や団体行動のために指定腕章装着、携帯電話を利用した確実な連絡手段の確保などの改善を進めている。

2015年度冬季研修で第24回目を迎える本研修では、多文化・国際交流と相互理解と友情の形成という趣旨をより徹底して意識できるよう改善しながら、学生主体の自立した企画運営と上級生から下級生への経験の継承を、見守りつつ支援する方針である。

#### 5. 沖縄高専インターアクトとの相互交流

長岡高専インターアクトと沖縄高専インターアクトとの友好と交流は、お互いのクラブ活動の報告によるクラブ活動の改善と社会見学による平和と戦争の学習を目的としている。12月と3月に新潟の妙高で行われるスキー研修や9月に沖縄で行われる沖縄研修は、互いの地域における異文化・多文化体験であって、そこでの経験は高専生が感受性豊かな学生の内にしか感じる事ができない事である。それは様々な刺激となって、学生自身の成長に大きく繋がってゆくことであろう。

沖縄高専インターアクトクラブは、多文化交流の

活動を行ってきた国際交流学生委員会（WSB）の本科 1～3 年生のメンバーで構成され、地域社会への貢献と多文化国際交流を目指して結成された組織である。沖縄高専 WSB 学生は、長岡高専との交流行事や情報交換を通してインターアクトクラブという活動を知り、平和と奉仕というロータリーの理念を学び、長岡高専生のように地域社会に貢献したいと考えるようになったのである。

2014 年度春季研修に参加した沖縄高専インターアクトの学生には、長岡市などにホームステイしてもらい、翌日、長岡高専インターアクトクラブが長岡市街や長岡高専の施設を紹介して交流した。

2015 年で第 5 回目を迎えた沖縄交流研修の目的は、本土と異なる文化や状況の地域での「国際平和の理解」、研修を通しての「自主性・意欲・自己啓発の向上」のリーダーシップの育成、及び、社会貢献へ向けての「視野の拡大」である。これらのことは、長岡高専インターアクトクラブの学生が、社会に羽ばたく新世代の一員として、国際理解と社会奉仕というインターアクトの理念を学習して認識してゆくことである。

2 校のインターアクトクラブ間で交流研修を行う意味は、お互いの活動内容の報告、さらには地域社会と関わるインターアクトクラブの活動をその地域を含めて知ることにあると思う。その方法として、電子メールやテレビ会議のような情報交換よりも学生が直接相手の地域へ訪れ、普段生活している社会を体験することは効果的な方法ではないかと思う。

この研修を機にして、学生たちは様々な面に目を配るようになり、様々な活動に積極的参加するようになり、活動への意欲が向上してきた。また、この様な、多文化と国際交流活動を全国に発信していく一つの手段として、SNS である Facebook のページを有効に活用して、『長岡高専インターアクトクラブ』の理念と活動を世界へ発信している。沖縄高専インターアクトクラブのメンバーがこの「長岡高専インターアクトクラブのページ」<sup>4)</sup>に参加している事もあり、同様の活動を考えている次世代の学生にも大きなきっかけと刺激を与えられるであろう。また、この様な情報を学生が自ら発信していく事で、学生自身が活動に自信と誇りを得ることができ、今後さらに活発に活動してくれるであろう。

この研修の成果が、とくに受け入れ側の沖縄高専生を中心とした学生による自主的な計画実施にあることを指摘したい。今後も、二高専間の交流にとどまらず、同地区のインターアクトクラブ間の交流、多業種に渡り実社会の重鎮が集うロータリークラブメンバーとの交流や様々な社会貢献活動を行っていくことが期待されている。

以下に 2015 年度の沖縄研修のしおりを示す。

2015 年度長岡高専インターアクト沖縄研修しおり

＊目的

学生の自主的な多文化交流を通し、学生自身の成長と視野の拡大を図る。

＊期日

2015 年 9 月 16 日（水）～9 月 20 日（日）5 泊 6 日

＊交流会会場

沖縄工業高等専門学校

沖縄県名護市辺野古 905 電話 0980-55-4003

＊沖縄滞在中の宿泊場所

かふーわ：直通：090-1947-0122 : 098-998-8628

16～18 日：かふーわ うらそえ：

沖縄県浦添市字港川 331

19～20 日：かふーわ ぎのわん

沖縄県宜野湾市大謝名 2-5-11

今回参加した学生たちの感想は以下の通り。

「沖縄高専の人たちは、全日参加の方と 1 日だけなど短い時間の参加の方がいましたが、どなたも長岡の生徒に気さくに接してくれました。

参加者の成長としては、全員の社交性の向上、戦争学習による戦争の深い理解、お互いに注意し合える関係の構築が目に見えて成長しているように感じられた点です。初日に比べて、最終日の今日では細かなことも気付けるようになったと思います。」

「沖縄研修では付添いを含め学生だけの研修でしたが、みんな、一人一人が考えて行動したので問題なく研修できたと思います。

反省としては、後輩の指導があまりできなかったので、スキー研修では一年も参加すると思うので先輩としての行動を取れるようにしたいです。

問題点として空港で深夜バスに乗るとき、時間がギリギリで危なかったのが、飛行機で帰ってきてから深夜バスに乗る時間をもう少し欲しかったです。」

以上のように、参加した学生が、「全員の社交性の向上、戦争学習による戦争の深い理解、お互いに注意し合える関係の構築」の点で成長してくれて、また、沖縄研修の体験と交流で視野を広げ、異なる文化を発見して強く感じて、新たな意識で世界を考えたことは、学生の成長で評価すべき成果であろう。

## 6. 小括：まとめとリスク管理そして展望

### 6. 1 まとめ

以上の学生の感想を見ると、今年度も、ボランティア活動と、多文化／異文化／他文化との交流を通

した、学生の意欲／意識／価値／視野／世界の拡大と、相互理解・信頼による平和と人権意識の形成と共有、および、学生の気づきや育ちという効果を確認することができる。

今後の部活行事の指導や学生活動の支援に当たって、以前の活動報告「長岡高専インターアクトクラブ活動報告 2013」<sup>5)</sup>であげた課題とも共通して、引き続き以下の課題をあげなければならない。

1. 学生のボランティア精神の涵養、及び、社会貢献活動のための学習の指導
2. 自主的な部活動を持続させるため、協働のスキルを継承する仕組み、及び、事業実施の際の外部との協力体制の構築の支援
3. 行事实施に当たっての安全対策としてのリスク管理の手段の確立の支援

1のボランティア精神の涵養と社会貢献のための学習への支援は、顧問をはじめ支援者側で引き続き、様々な場面で指導してゆかなければならない。

2の部活動で得たスキルを継承する仕組みの構築については、2014年度以降、前年度部長が、新年度の副部長となって新部長を補佐し、仕事を分担することを通じて、前部長から新部長へクラブ運営のスキルの継承をはかっている。この指導部の支援の下に、行事プロジェクトの企画と実行は指導的部員がリーダーシップをとる体制を取った。国際交流スキー研修では、学生主体の自立した企画運営のための臨時のコアメンバー会議を毎週開催して、多文化・国際交流と相互理解という趣旨をより推進できるように企画を立案・改善しながら、企画・運営のノウハウを上級生から下級生へ継承する機会としている。しかし、会計処理を終了できないという未熟な点があったので、今後の改善が必要である。

自主的な学生団体としての継続的な事業実施体制については、当クラブのメンバーが、クラブ顧問や支援者からある程度自立して、自主的な学生団体としての継続的な事業実施体制を構築する必要性を意識することが課題である。我々支援側には、支援の意思決定の伝達経路の確保や、協働体制および活動資金の確保の仕組みづくりが必要である。

## 6. 2 リスク管理について

これまで述べてきたように、長岡高専インターアクトクラブは広い地域で積極的な活動を行っている。これにより普段の生活からは思いもよらない事態に遭遇することもある。それら事態が危害であった場合、学生が対応するには経験と準備が足りない。それを補うリスク管理について考察する。

リスク管理を簡単に言うとクラブ活動など行為に対して、発生するリスクを予め検討し、十分な対策と準備により安全性を向上させる、主に未来に対するの準備行為であると言える。これにはリスクの算

定が大切である。リスクとは危害の大きさとその発生頻度の組み合わせで得られるものである、学生だけではそれらに対して知識経験が不足している場合もあり、十分にリスクを評価できない。リスクが算定できれば、被害程度の極めて大きい物や頻度の高いものに対して、適切な対策を講じることができる。例えば真夏の街頭募金を行いたいという活動に対して、熱中症のリスクは大きく算定される。対策は日陰の確保と水分補給であり、活動の安全性は向上する。

学生側は、リスクを算定するためにも経験豊かな大人との対話が必要になる。保護者、クラブ顧問、社会から補助してくれる方々と緊密な対話を行うことが学生らに求められる。

支援側の対学生リスク管理として、十分なリスクの見積もりは大切なことなので、経験豊富な外部の方との意見交換を緊密に行うことが大切であると言える。

## 6. 3 今後の展望

引き続き学生の成長を有効に支援してゆくために、上述の課題を学生たちと話し合い、年次の報告書を作成して各所に報告することで学生団体活動の改善策を共有してゆく予定である。今年度の検討結果を踏まえて、次年度以降も学生による企画実施・研究報告・協働での評価改善のサイクルを継続してゆく。

当クラブの学生は未成年が多いため、社会人による指導と支援の必要性は高い。今後の方針として、筆者たちは、引き続き、上記のリスク管理を前提にして、以下の学生の活動を支援してゆきたい。1)学生が企画・実行のスキルを継承する仕組みを構築すること、2)学生自身が情報伝達と意思決定の共有性と協働体制を確立すること、3)学生が企画立案し関係の方々と協働しつつ準備を進めることである。

## 参考文献

- 1) <http://www.nagaoka-ct.ac.jp/st/interact/>
- 2) <https://www.rotary.org/.../standard-interact-club-constitution-and-bylaws>
- 3) <http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kosodate/cate06/hutabaryou.html>
- 4) <https://www.facebook.com/Nagaokakousen.Interactclub>
- 5) 佐藤公俊他：長岡高専インターアクトクラブ活動報告 2013, 長岡工業高等専門学校研究紀要, 第49巻, 2013

(2015.10.3 受付)